

県民のあゆみ

介護ステーション



2025
1
令和7年1月号



山形県広報誌
令和7年1月号

県民のあゆみ

No.643

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子
県ホームページアドレス https://www.pref.yamagata.jp/



「サイエンス」欄は、
この欄から「サイエンス」欄へ
リンクされています。

- 特集1 介護の未来を支える人材の確保に向けて **P.02**
- 特集2 雪害事故から身を守るために **P.04**
- 特集3 令和5年度の決算がまとまりました **P.05**
- 奏であう人 **P.08** / 潜入レポート! **P.16**

特別養護老人ホームで働くミャンマー出身の技能実習生のお二人と、指導担当の介護課長の鈴木さん。最新技術も活用し、質の高い介護の提供に取り組んでいます。
(撮影場所:さくらホーム天童)
※撮影時のみマスクをはずしています。

今月の
表紙の
Q

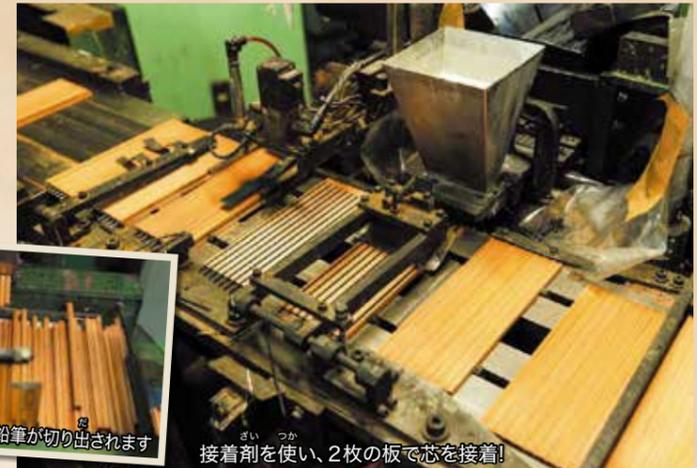


どうなってるの!? みつびしえんぴつ やまがたこうじょう ぜんべん
三菱鉛筆の山形工場 前編

身近にある鉛筆は、どうやって作られているの?

山形にある国内最大級の鉛筆工場。高品質な鉛筆を生産し、全国へと届けています。

文房具店でよく見かける三菱鉛筆の鉛筆は、実はすべて、山形県内にある工場で作られています。色鉛筆を含めた生産本数は、国内第1位です。鉛筆を作る工場では、さまざまな機械を使って多くの作業が自動化されています。鉛筆は、黒鉛と粘土から作られる芯と、主に「インセンスシダー(ヒノキ科)」という名前の木を加工した木目が真っすぐな板から作られます。板に9本のみぞをつけて、芯を乗せ、もう1枚の板で挟んで接着した後、削って1本1本を切り離します。次に、鉛筆を湿気から守り、触り心地を良くするために、鉛筆の表面に塗料を7回以上塗り重ねます。その後、鉛筆の両端を削ってきれいに整え、文字の刻印や装飾をつけて、鉛筆のできあがりです。完成した鉛筆は、検査員が見たり、触ったりして、塗装の傷、曲がりなどがなくを確認します。厳しい検査に合格した鉛筆だけが、山形から日本全国へはもちろん、海外へも出荷されます。



一度に9本の鉛筆が切り出されます

接着剤を使い、2枚の板で芯を接着!



お気に入りのキャラクターも鉛筆に!

熟練の技と感覚で最終確認!

鉛筆を最後に検査するのは「ライン保証検査員」。専門のスタッフが、品質管理の重要な役割を担っています。

